

みみタロウ

日本語版 ☆ 117号 2016年4月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
 大津市におの浜1-1-20 ビアザ淡海2F
 Tel/Fax : 077-523-5646
 E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
 URL : http://www.s-i-a.or.jp
 : https://www.facebook.com/siabiwako

夢の翼ではばたいて

今回みみタロウは、ホセ デ ラ コリーナさん(愛荘町在住)とご自身の絵が展覧されている展覧会場で
 お会いし、人生や夢についてのお話を聞かせていただきました。



ペルーから初めて日本に来たのは23年前。大阪で8年間働き、一旦帰国した後、今度は滋賀にやってきて、故郷のチチカカ湖に似たびわ湖のあるこの地がたちまち気に入りました。加えて私の住む愛荘町には美しい田園風景と宇曽川があり、物語のストーリーや絵のイメージを思い描きながら、その風景の中を歩くことが大好きです。

私は小さい頃から話を空想したり、絵を描くことが好きで、印刷の勉強をした後、プリントデザインの仕事をしていました。そしてペルーが不景気な時期に、事業資金を稼ぐため来日。打って変わって、朝から晩まで工場のラインでの仕事をするようになりましたが、頭の中では物語を空想し、作業の合間にそれを手帳に書き留めたりしていました。そんなふうに創作した作品は60作ほど。主に子ども向けのファンタジーで、空想の動物などちょっと風変わりな挿絵も描いています。子どもの頃、空想のお話を友達に話して笑われたことから恥ずかしくなり、ずっと隠れて創作していました。ところがある日、それが妻に見つかり、仕方なくいままでのことを話すと、妻は笑わずとてもきれいな作品だと褒めてくれ、それからさらにがんばって創作するようになりました。

2008年のこと、リーマンショックで妻は失職すると、日本語教室に通うようになりました。その日本語の先生と妻との話の中で私が絵を描くことが話題になると、偶然先生のご主人も画家ということで、絵の仲間の前町長さんと一緒に我が家に作品を見に来てくれました。そして、町の文化祭に絵を出展するよう勧められ、何も知らない私のために作品を選んだり額を貸してくれたりしました。そうして初めて自分の絵が展覧会に出展されることになったのです。大勢の友達が見に来てくれ、コミュニティ誌などに掲載されるなど、自分でも信じられない思いでした。その後間もなく私も失職。そのことが前町長さんの耳に入ると、私を応援しようといろんな人に声をかけてくれ、私の作品をポストカードにして

販売した資金で私の個展を開催してくれました。すると近畿一円からテレビや新聞社が取材に来て、私はたちまち有名人になってしまいました。以来、毎年あちこちで展覧会を開催し、たくさんの絵の仲間もできました。そして町のイベントにもいつも顔を出すようになり、スペイン語も教えるようになりました。宇曽川でも釣り友達ができ、釣りのコツを教えてもらったり、釣った魚を分け合ったりしています。町を走っていると、いろんな人から「ホセ、何してるの?」と声がかかり、多くの友達に囲まれてとても幸せです。ちょっとしたきっかけから運命が私を広い世界に運んでいくようで、人生っておもしろいですね。



外国人の中には、機会がなかったり、少し勇気が足りなかったりして、自分の才能を発揮できていない人が大勢います。日本人は文化の鑑賞や食文化に大きな関心を持っていて、外国人も温かく受け入れてくれます。ですのでどんどん好きなことを楽しみ、それを表現すべきです。仕事をするだけでなく、いろんな所に出かけたり、イベントに参加したりして楽しく暮らしましょう。そして沢山日本人の友達を持って、いつも日本人と共に生きること。これがこれからの私たちの暮らし方だと思っています。

私の目下の夢は、これまで温めてきた物語を出版すること。もう私の子どもたちも大きくなったので、今度は自分の夢を追い求めることができるし、いろんな経験を積んだ今だからこそ、美しい物語が書けると信じます。そしていつか、ここで生まれた日本文化も混じり合う楽しい物語を多くの人に読んでもらえたら幸せです。じつげん 夢ですが、人生、わからないもの。頑張っていれば、夢への扉が見つかるかもしれません。喜びや悲しみが沢山あった過去はもう終わったこと。今という時は、色々ある中でも希望と共に生きて、それを未来に続けることができます。そして未来はどうなるかわかりませんが、良いことがあれば喜び、悪いことが起きればまた頑張る、いつも夢を失わずに生きる、ただそれだけのことです。これが私の物語です。